

「明き心・深き心・堅き心」 歌声高らかに



竹内千恵子校長の式辞

松任高校は、昭和三十八年に全日制普通科、家政科及び定時制普通科を擁する高等学校として、手取川扇状地帯の中心、旧石川郡松任町で、その産声あげました。本校創立の前年、翠星高校の前身である松任農業高校の三浦地区への移転が決定し、本校はその跡地と校舎の一部を引き継ぐ形で誕生しました。

昭和三十九年に松任農業高校の移転が完了すると、校舎が本校専用となり、その後は、定員を増加させながら県下有数のマンモス普通高校として成長していきました。当時は、日本が高度産業社会へと脱皮し、世界に冠たる経済大国へと歩みはじめた時であり、教育の質的、量的拡大が求められ、本校もその要請に応える

本日ここに、石川県知事谷本正憲様、石川県議会議長山田憲昭様、白山市長作野広昭様をはじめ、多くのご来賓の皆さま、並びに本校ゆかりの方々のご臨席のもと、創立五十周年記念式典を盛大に挙行できることは至上の喜びであります。

竹内千恵子校長の式辞（全文）

松任高校創立50周年記念式典が平成2年1月1日(土)白山市松任文化会館で行われ、全校生徒513人と同窓生、保護者や教職員ら約700人が半世紀の節目を祝いました。式では竹内千恵子校長が式辞、橋本和雄実行委員長が挨拶を述べ、谷本正憲石川県知事をはじめ多くの来賓の皆様から挨拶や祝辞をいただきました。最後に生徒代表の川端竜矢君が誓いの言葉を述べ、全員で校歌を斉唱しました。

祝創立50周年記念式

松高だより

臨時号
発行
松任高校
P T A
広報委員会

形で発展を遂げてきました。

総合学科への改編に併せて校舎の改築改修も進み、平成十二年から十六年にわたり、普通教室や特別教室棟の大規模改築工事、耐震補強工事が行われ、更に今年は、創立五十周年を記念して、同窓会のご尽力で中庭も整備され、安心して、落ち着いて学習や部活動に励むことができる教育環境が整いました。環境は人格の形成に大きな影響を与えます。この素晴らしい学舎で、生徒たちが生涯に一度の高校生活を満喫し、かけがえのない出会いをいくつも重ね、豊かな時間を過ごしてくれることを願っています。

平成二十二年には、総合学科に普通科が併設され、来年の春には新たな普通科からも卒業生を出すことになります。これまで蓄積してきた総合学科の

いつた授業形態を積極的に取り入れ、学習の基礎・基本を徹底し、思考力・判断力・表現力を育み、さらには地域と連携したキャリア教育も展開していくます。地域社会の中で学びを深化させ、その繋がりを強く意識させることをとおして、地域発展の屋台骨となる人材を育てるという、本校創立以来の使命を一貫して果たし続けていま

平成十二年には、総合学科高
校に改編し、社会の変化に自ら
対応できる心豊かな人間の育
成を目標として掲げ、生徒の個
性を尊び、既存の学科の枠にと
らわれない多様な科目を開設
し、新たな発想で教育内容や教
育方法を捉え直すことに着手
しました。

形で発展を遂げてきました。「明き心に」「深き心に」「堅き心に」を中心に「建学の精神」として、昭和から平成の半世紀にわたり、軸足をこの地に置き、地域に愛される学校作り、地域の発展に貢献できる人間作りを強力に推し進めてきましたが、地域とともに歩むという精神は、本校五十年の歴史を貫くとともに、今なお本校教育活動の支柱となつています。

え、一年を通して鮮やかな緑の色彩を誇るところに、たくましい生命力や忍耐強さが連想されます。そして、「この松の巨樹に本校生徒の将来像が重なります。

現代は、経済のグローバル化や産業構造の転換など、めまますぐしく変化する時代であり、混沌とした未来が待ち受けされることも予感されます。しかし、松任高校生一人ひとりが高い志と気概を持ち、直面する課題に怯まずに対峙し、果敢に挑戦していくものと確信いたします。

私ども教職員は、本校の歴史と伝統を確実に受け継ぐことで、この地に生まれ育ったことに誇りを持ち、力強く生きて行く生徒の育成に全力で邁進いたします。

隣の高齢者施設を訪ね、ハンブルグマツサージをしながら高齢者と触れあうという活動を続けています。自分たちの目線で自分たちの出来ることを手写く、着実におこなっている姿には、本校生徒の純真さと誠実さが溢れしており、清々しい思い満たされます。

本校校庭には大空に伸びる松の巨樹がありますが、夏の日差しや、冬の風雪に

一方、部活動に目を転じ、また、その活躍はめざましく、今年のインターハイではフェンシング個人エペで七位の成績を残しました。吹奏楽部は中堅日本吹奏楽コンクール小編成の部で金賞を受賞し、県代表として本大会に進み、創立以来の快挙となる第2位の栄誉に輝きました。この部員は、



谷本正憲石川県知事の挨拶

オランダの活動の各分野で一層活躍されることを希望します。

若々しい在校生諸君が、社会にそして母校に貢献できる責任のもてる社会人に成長するには、幾多の困難が山積していることと思います。時には挫折感を覚えることがあります。そんな時に心を癒してくれるのが母校であり、友情ではなないでしょうか。そして、いかに環境の変貌があるとも、諸君達がこの学校で学んだ三年間の足跡は決して消え去るものではありません。

在校生諸君の未来に向けての果敢な挑戦と更なる飛躍を期待いたしますと共に、母校の発展のため今後とも物心両面にわたり支援協力いたすことを誓いお祝いの言葉といたします。

発展のために寄せた厚い気持ちはあります。ちであり、在校生諸君には有効に活用されることを祈念します。

して、マイクロバス、吹奏楽部の樂器の購入、校旗の新調、中庭の整備を行い、そして二月に記念誌を発刊する予定です。これは多くの同窓生の母校



橋本和雄実行委員長の挨拶

私ども教職員は、本校の歴史と伝統を確実に受け継ぐことで、この地に生まれ育ったことに誇りを持ち、力強く生きて行く生徒の育成に全力で邁進いたします。

卷之三

の挨拶（概要）